

“ものづくり” 振興のための基礎資料作りと地域産業おこし

研究の概要

「地域での“ものづくり”の将来を考えるためのお手伝いをします！」

景気の停滞、円高、メーカー工場の縮小・閉鎖・海外移転…、日々新聞を賑わせる情報は、地域でのものづくりを支える皆さんに頭痛の種、場合によっては存亡の危機をもたらすものばかりです。その一方で、先進地とされるいくつかの地域では、独自の取り組みを通じて粘り強く地域でのものづくりを続けています。当然ながら、各地の事情は異なっているわけですから、そのまま余所の真似をしたって意味はありません。それぞれの事情に適した（応じた）取り組みが必要です。そのためにも、自分たちの地域には何があるのか、自分たちは何ができるのか、どんな強みがあるのかを知ることが大事です。自分たちの、自分たちの地域の“ものづくり”を足下から再発見してみませんか？

研究の特徴

まず自分たちの特徴を洗い出す作業からしていきましょう。自分たちはどんな企業・地域なのか、中にいると存外気づかないものです。履歴書か自己紹介状のようなものを作り、参加者の間で情報を共有していきましょう。その中から、他者に真似できないこと、応用が利く分野など自分たちの強みを探しつつ、連携を深めていきます。必要に応じて他地域の企業・取り組みを見学したり、学内外の専門家にも応援を依頼して話題を提供してもらいます。そういった取り組みが外部資金獲得や製品開発などへもつながるかもしれませんし、参考となる他地域の成功事例も自ずと絞っていくことになるでしょう。いずれにしても、域内連携やネットワーク化などそれらを足がかりとして、自分たちオリジナルのものづくり振興・地域産業おこしをしていきましょう。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

海南市、岸和田市や南相馬市（旧原町市）など、いくつかの自治体で産業振興政策立案のための事業所・企業調査に携わってきました。また、純粋に産業調査や自治体史作成のお手伝いも岡谷市・諏訪市や須坂市でしてきました。そのようなご要望もお手伝い可能です。

研究者からのメッセージ

ローカルな地域からの調査・活動を通じて、より広い問題・政策課題へとアプローチしていきます。地元の皆さんのお手伝いをしていくことができればと考えています。

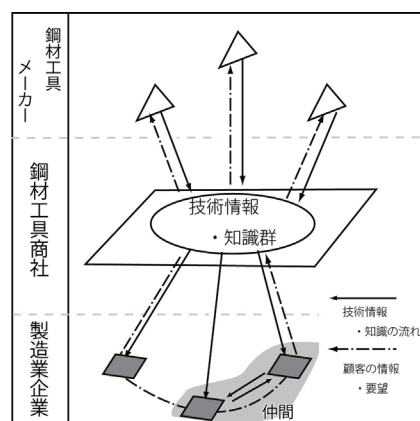


図 開発型中小企業形成の基盤となる
技術情報の流動と商社の関係
(聞き取り調査により作成)

研究分野 : 地域産業論, 経済地理学, 人文地理学

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学経済学部 経済学科・准教授・藤田和史

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp